

This image shows a full page of blank graph paper. The grid consists of 10 columns and 10 rows of squares, formed by thin black lines. The paper has a slightly off-white or cream color with some minor texture and small dark spots visible. There are no markings, numbers, or text on the grid.

八月廿七日 金 晴

一昨日から先生が「戦争の話を一さいしては
ない。言ったらしょう知れない。とあつしや
たので、そんな話はやめようと思った。

休養だったので、午前中はつるひ物をした。

リ、日記を書いたりした。昨日の事は書く事が
 澤山あつてなかなかはかどらない。

畫食後八百谷さんに加藤先生と構とてハ

ケツを肴うて、齋園に行つた。又しばらくに行つ

た	め	で	少	し	縁又	？	た	や	う	な	氣	が	し
---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---

た	た
か	か
さ	さ
つ	つ
た	た
か	か
ボ	ボ
ナ	ナ
ヤ	ヤ
モ	モ
大	大
き	き
く	く

な	つ	て	お	た	四	年	生	の	作	つ	た	大	根
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

入	入
夢	夢
ふ	ふ
だ	だ
ん	ん
草	草
う	う
肌	肌
に	に
私	私
た	た
ち	ち
あ	あ
作	作

た	た
き	き
う	う
り	り
も	も
十	十
五	五
六	六
八	八
七	七
九	九

專	生	に	や	木	茂	丁	先	二	主	外	お	た	か	度	あ	に	て	本	干	質	上	分	凡
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

に 歸
て
汗 腫
を
した。
并
を 讀
て

ぬ
る
入
も
あ
つ
た。
四
時
に
起
き
て
す。

る
め
を
い
た
た
い
た。
す
ん
で
か
ら
ク

立川さんがむすを獲たらしい。袋も
見せていた。枝にふさが居てお月
様もしゆうしてあった。私も六年になつた
らああいふ上手なのが出来るかなと思つ
た。堀越さんが立川さんに葉書の番地を
代筆してもらつてゐた。夜寮へ歸つてから
前野さんのおうちからのかりんとをいただ
いた。甘くてとてもおいしかった。

八月十九日 日 晴

お八つにふかしぼんをいただいた。度齋へ歸つておかしから叔原さんの荷物を取りに四人と先生と六人でかりやカーを引いて行った。かはりばんこに乗った。行きは



時間の際に先生が「みんなお点の事を思つてゐる」とですからそれを紙に書いて下さい。題目は「日本を立て直す私の考へ」大化の改新について。この二つだ。とおっしゃった。これはだれに聞いてもよいがお友達とさうだんしたり、岩地先生だけには聞いてはいけな。とおっしゃった。お習字の時間は殆め少し練習してお清書をした。なるたけ心を落ち着けて書いた。お晝御飯がすんでから齋へ歸つてお洗濯をした。敷布のハンケチだけした。

八月二十日 候
おうさしにく書くこと
今度の日記もまじつた。丁ねに。

八月二十日 月晴

今日は二時間目の途中からだった。國史の時間はおしけんを書いた。他は自習だ。お晝食はおなすの油味増だった。が、カレー粉がはいって

おたのでこの間よりめつた。午後はずつと學友に居た。しけんを書いた。

て鉛筆をけづつて。みに行くと齋藤先生が。お茶のす。や。お。た。の。で。す。ぐ。持。つ。て。来。て。来。れ。と。お。ち。か。つ。た。す。る。と。お。茶。を。あ。げ。ま。す。か。ら。お。の。ん。を。お。出。し。な。さ。い。と。お。フ。し。や。つ。た。の。で。お。出。し。な。さ。い。と。お。つ。い。で。下。さ。う。た。の。で。さ。れ。飲。ま。う。と。や。り。な。ば。い。で。と。あ。げ。ま。せ。う。と。熱。く。て。ふ。う。ふ。う。や。り。な。が。ら。や。う。と。飲。む。と。も。う。一。ぱ。い。で。と。お。つ。し。や。

つたのでもう一ぱい飲んだ。お腹をがはが
ほにさせて、お教室へ歸った。お夕食は昨日
と同じふかし薯だった。が、とても澤山あつ
た。お腹がいっぱいになった。今日は
四年生がお掃除だった。

八月二十一日 火晴



て、う、た、ま、し、來、の、朝、し、
す、に、思、を、て、る、お、食、て、
し、に、ひ、た、も、時、話、の、ぬ、
ッ、リ、ひ、た、も、は、が、目、た、
か、ッ、ま、も、と、疎、あ、た、の、
リ、は、す、ッ、あ、開、ッ、う、よ、
し、に、に、け、の、を、た、の、な、
ま、す、の、る、に、し、と、前、ど、は、
せ、る、日、ぞ、く、て、れ、に、お、こ、
う。の、本、と、い、体、は、も、話、う、
と、は、を、思、に、を、久、加、し、い、
お、皆、も、ッ、く、丈、米、藤、ふ、
ッ、さ、と、て、い、夫、川、先、事、
し、ん、の、來、米、に、に、生、を、頃、

てから一年と一日目だ。
洗面から帰って来て、
今日は久米川へ疎開し


やうだ。お授業は図書館で四時間と自
習だった。日記を書いたりトランプをした
りした。午後はずっと學校にゐた。する事が
なくてたいくつなので先生の所へ行くとおな
すを切らせて下まつた。やはり先生がおかり
になるのよりおそかった。しばらくやつても
う一つ切つて代りませう。と岩田さんに言つて
切つてゐると、親指を切つてしまった。おなすに
つけては大へんだと思つて、親指を中にして
手をにぎつた。それから高田先生
に、ついで音楽室に行つて、ほうた
に、を巻いて、いた。二階へ行
い、て、めん、な、に、見、れ、る、と、取、
っ、の、で、又、炊、事、場、へ、行、つ、た、
し、い、の、で、見、て、い、ら、し、や、る、の、
兵、隊、さ、ん、が、見、て、い、ら、し、や、る、の、
で、隅、に、か、く、れ、て、小、さ、く、な、つ、て、お、
た、中、根、さ、ん、の、い、つ、て、下、さ、つ、た、い、
り、豆、を、十、つ、ぶ、つ、つ、た、い、お、
教、室、へ、歸、つ、て、あ、晝、寢、を、し、た、お、
夕、食、は、大、御、ち、走、で、油、味、増、の、お、な、

[illegible]

田先生がいらつてゐてほつたいを取つて下つた
血が堅くなつて黒くなつてゐる。丁度山口先生
が音楽室で治療をしていらつたのでつい
でにお藥をつけていただき、別のほうたいで巻
いていただいた。氣持が悪いので茂木先生
のひざに頭を乗せて横になった。しばらくす
ると氣持がだいぶよくなつたが、椅子の
上で寝た。お授業が始つて少しすると、並木
先生が歸つていらつた。おつめになつ

た	ら	し	呂	っ	さ	っ	た	た	っ
ら	し	ゃ	に	た	ん	た	の	だ	た
く	く	ッ	は	た	の	た	お	いた	た
音	音	た	い	後	お	東京	母	と	た
楽	楽	午	っ	寮	様	の	か	も	た
室	室	後	た	に	が	ト	持	と	た
で	で	は	と	歸	つ	マ	つ	も	た
休	休	寮	も	フ	て	ト	乾	も	た
ん	ん	へ	氣	て	来	と	パ	あ	た
で	で	歸	持	か	て	乾	ン	い	た
い	い	つ	が	ら	下	パ	を	し	た
ら	ら	お	よ	国	さ	ン	い	か	た
っ	っ	風	か	行	さ	を	い	か	た

つた。とてもしもあんなに



今日は休養日なので朝會がすんでからすぐ
寮へ歸った。先生が、「十一時に荷物の検査
をしますからきれいにしてをきなさい。」とお
っしゃったのですぐ荷物の整理にくりめめた。
出し入れのしやすいやうに工夫した。荷物の整
理をしてゐる時、阿部先生が無くして困ってゐ
た。私たちの下駄箱を作つて下さつていらつし
やうに整理がすっかり整る。以下へ降りていらつし

面	う	三	が	た。		た	場	大	リ	や
器	ス	四	き	歸	午	フ	所	き	た。	い
を	リ	め	ふ	る	後	た。	は	い	阿	と
置	し	所	に	時	は		上	順	部	お
い	て	か	ひ	は	ず		か	に	先	フ
た	バ	ラ	ど	降	フ		ら	は	生	し
リ	ケ	雨	ス	フ	に		三	き	に	や
し	ツ	が	降	て	寮		段	物	お	フ
て	を	も	リ	お	で		目	を	禮	た
雨	置	フ	出	な	日		の	入	を	め
水	い	て	し	め	記		一	れ	し	で
を	た	來	て	つ	を		番	た。	て	下
受	り	た。	來	た	書		左	私	め	へ
け	洗	び	て	雨	い		端	の	う	降

た。戸が閉ぢしとあるのにうす暗い。下ではまことちゃんやめめるちゃんまでさわいて居る。日記を書いてゐると、国行さんのお母様がふかしぼんにジューをつけたのを、手は乗せて下さった。とてもおもしろかった。するでからすぐ出發用意になった。ほうたいをぐるぐる巻いて長ぐつをはいて行つた。先生がじやが薯を二つづつ賤すやうにめんなに小きな聲で言つてちやうだい。とおつ

に	に	い	た。	シ	が	並	て	に	た。	し
水	行	た	り	ハ	ナ	ん	か	寮	五	や
を	っ	だ	て	ム	イ	だ。	ら	へ	年	っ
飲	た。	い	も	を	フ	す	殘	歸	生	た
ん	お	て	お	つ	で	る	し	つ	ほ	の
だ	薫	が	い	け	ニ	と	て	た。	お	で
の	を	ら	し	て	つ	国	來	四	掃	す
で	い	下	か	下	に	行	た	年	隙	ぶ
お	た	へ	っ	さ	切	さ	お	生	で	み
腹	だ	お	た。	っ	り	ん	薯	も	な	ん
が	い	茶		て	さ	の	を	歸	い	な
い	た	を		下	っ	お	出	っ	の	に
っ	う	飲		さ	き	母	し	て	で	傳
は	へ	め		っ	め	様	て	張	先	へ

いになつてしまった。

きちんと、いっも せんとする
よい 靴箱です。



八月二十四日 金
一学期もそろそろ終
りさうだ。だがもつと
もつとがん張りはばな
らない。圖畫の時間は
久しぶりで寫生をした。

忠に塔の所から近くの木をくはしく書
いてそれを書きさしのかはりにして遠くの景色

を	算	数	の	時	間	は	先	生	が	書	け	な	か	っ
た	ら	な	く	て	自	修	だ	っ	た	の	で	分	散	し
と	小	数	を	し	た	わ	か	ら	な	い	所	は	加	
藤	先	生	に	お	聞	き	し	た	早	く	所	又	沢	
先	生	が	歸	つ	て	い	ら	っ	し	や	る	と	よ	
い	と	思	つ	た	午	後	の	理	科	は	一	日	の	
生	活	で	一	番	よ	い	点	ど	う	し	た	ら	節	
約	か	ど	う	し	た	ち	早	く	出	来	る	か	ど	
う	し	た	ち	氣	持	が	よ	い	か	ど	う	し	た	
ら	樂	か	こ	の	四	つ	を	考	へ	て	見	た		

西尾寮のやうに通する所が一人づつの

所だった。お掃除をする人々整理をす
る人に分けるのはどうしたら早く出
来るかといふ事をエ支した。すんでめりもず
つと學放に居た。日記を書いたリトランプな
どをして遊んだ。寮へ歸つてから、茂木先生
有賀先生に治療をしていただいた。早く
直るとよいなあと思つた。

八月二十五日 土 晴



詠	を	お	帳	面	に	寫	し	た						
た	國	史	の	時	間	は	自	習	で	十	五	遠		
尾	平	野	と	似	て	る	所	を	書	く	の	だ		
か	り	な	め	つ	た	は	關	東	平	野	と	派		
本	の	氣	候	の	違	ひ	を	書	いた	一	番	わ		
た	山	脈	を	書	いた	り	裏	日	本	と	表	日		
						理	國	語	だ	つ	時	間	目	は
						の	考	査	が	あ	っ			

午後からの体操の時間は、鐵棒をしたり、かけっこをした。あまり高いので飛びつけなかった。かけっこもあそびなつてしまった。それからお教室へ歸つて少しの間日記を書いてゐると、有賀先生がいちやうして、五年生日記をやめてお野といを運びませう。とおっしゃつた。バケツを持ち門前に集合した。赤松校の珠開學寮知源寺のお隣から二回運んだ歸つて來てから先生に治療をしていただいた。

夜	寮へ	歸る	と	鈴	蘭の	お	部	屋	に	電
球	が	無	く	て	暗	か	つ	た	先	生
て	い	た	だ	い	て	道	具	を	揃	へ
す	る	と	就	寢	用	意	に	な	つ	た
八月二十六日土	晴	今日	は	第	四	日	の	授	業	だ
地理	の	時	間	昨	日	で	授	業	だ	。
した	考	査	を	返	し	て	地	理	の	時
野	さん	た	だ	い	た	。	て	い	た	。
一番	が	百	点	で	河	野	さん	た	だ	け



た。身体としては男子の方がよくて、女子が一番が85点だ。お前は65点だった。先生が、良下や可はつけなかつたとおっしゃつたが、私は心配だった。これではもつともつとがん張らねばならないと思つた。それから、奈良盆地についてしらべて終になつた。いそり。

午後から待ちに待つたお裁縫の時間だ。それに今日布をたつてしまへば、お裁縫の時間だ。それいそりうれしい。だがまだ布のない人はかはい

さ	う	だ	な	と	思	つ	た	丁	度	布	の	あ	る
人	と	無	い	人	と	半	分	づ	つ	な	の	で	二
入	で	た	つ	事	に	な	つ	た	お	は	平	松	さ
ん	に	だ	つ	た	並	巾	大	巾	の	他	に	三	巾
と	い	ふ	の	も	あ	る	と	教	へ	て	下	さ	つ
た	中	川	さ	ん	の	か	さ	う	だ	つ	た	お	の
も	そ	れ	に	近	か	つ	た	た	て	た	時	は	と
て	も	う	れ	て	か	つ	た	早	く	縫	ひ	た	い
な	あ	と	思	つ	た	そ	れ	か	ら	す	ぐ	治	れ
う	を	し	て	い	た	だ	い	た	り	食	ま	で	ト
ラ	ン	プ	を	し	て	遊	ん	だ					

朝會までお教室にお
ると、いきなり飛行機
の爆音がするので窓の
所に行つて見ると敵機
だった。
ゆちゆち飛んで

ぬるのを見て憎くて憎くてたまらなくなり、あ

日本は本當に負けたのだとはつきり分つた。あれが勇

軍機であつたらどんなにうれしかっただらうに。とつ

ふ	づ	ス	思	っ	た。	朝	体	操	か	す	ん	で	か
---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---

う、行進の練習があつた。まは、肌右

前	へ	進	め	も	あ	っ	た。	一	時	間	目	に	久
---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---

ひ
込
ん
だ
の
で
二
時
間
目
か
ら
授
業

た	フ	た	す	ぐ	寫	生	の	用	意	を	し	て	決
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

疊	塔	の	所	へ	集	つ	た	畫	用	紙	を	い	た
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

た	た
い	い
て	て
す	す
ふ	ふ
つ	つ
づ	づ
き	き
を	を
畫	畫
い	い
た	た
阿	阿
音	音

先	生	も	書	い	て	い	ら	じ	る	や	二
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

八月二十七日 検
だ
つ
た
り
や
り
た
い
ろ
ね
ふ

僧
名
行
如
住
持
如
妙
造
寺
主

[illegible]

君のやうに詠げるやうになれよなあと思ふ

た。理科の時間は、**星**についてしらべた。**星**の中に

もいろいろしる類があつて、火星・木星・土星・ほ

星・金星・海王星・天王星 などあり、ほうき星・金

星・海王星・天王星は、お日様と同じやうに自分

から光を出してゐる。とあつた。曇りた日

みの中で迷子になったらどうする。と父聞

になつたので困つてしまつた
 するゝ荒木さん

か	木
を	を
は	は
方	方
矢	矢

い	言
え	つ
た	た
の	の
て	て
ま	ま
あ	あ
ま	ま
え	え
み	み
つ	つ
た	た

る	る
と	と
わ	わ
っ	っ
え	え
り	り
し	し
一	一
し	し
ま	ま
日	日
記	記

午	後	も	す	二	學	術	に	展	た	一	言
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

馬	出
し	し
す	る
番	た
た	た
外	た
出	る

た	た
の	の
て	て
書	書
い	い
た	た
ら	ら
た	た
り	り
い	い
た	た
た	た

[illegible]

三。	た
名	人
毛	讀
か	下
ら	一
薪	下
を	一
持	=
ゝ	
て	
寮	
へ	
歸	

上。	た
祭	祭
へ	小
掃	入
こ	小
て	舞
上	一
へ	
あ	
か	
り	
電	
氣	

た	た
か	か
え	え
お	お
帰	金
来	...
を	...
し	...
た。	...
風	...
が	...
強	...
く	...

[illegible]

ほこりが大部分だった。さっぱりした所で日記を書いた。



八月二十八日 火曜
音楽の時間は、海の合唱をした。私は中音部が一番好きだ。國語の時間は、遠泳を分けて、どい

ふ事が書いてあるかしら

よ	う	と	思	っ	た。	算	数	理	解	と	續	け	て
小	敷	を	お	習	ひ	し	た。						
午	後	は	寮	へ	歸	っ	た。						
班	か	ら	順	に	お	風	呂	に	は	い	っ	た。	出
て	洋	服	を	着	て	お	る	と	有	賀	先	生	が
い	ら	っ	し	後	で	お	早	く	こ	れ	を	い	た
だ	い	っ	し	後	で	お	永	に	お	箸	を	い	し
と	お	っ	し	後	で	お	永	に	お	箸	を	い	し
た	ま	う	な	の	を	一	本	づ	つ	下	さ	っ	た。
あ	ま	う	な	の	を	一	本	づ	つ	下	さ	っ	た。
ぬ	た	ゴ	リ	ゴ	リ	と	音	を	た	て	な	が	ら

いただいた。今までは、あたかもお腹の中が急につめたくなった。それからすぐはうたいを洗ったあまり、きたないの、こんなにならないうちに洗へばよかったなあと後悔した。干して二階へあがって、また、おやつに乾パンを五つづついただいた。味噌パンの味がして、とてもおいしかった。夕食後寮へ歸ってから、トランプをして遊んだ。

八月二十九日 水曜



高	島	さん	や	小	泉	さん	と	お	話	を	し	た。	寮	へ
た。	お	話	に	む	中	に	な	っ	て	お	話	を	し	た。
や	っ	に	な	っ	た。	昨	日	と	同	じ	乾	パン	を	し
だ	っ	た。	い	た	だ	い	て	め	ら	又	荷	物	を	し
片	付	け	た。	ト	ラ	ン	プ	を	し	て	お	る	と	し
お	晝	食	に	な	っ	た	の	で	す	ぐ	學	校	へ	し

行つた。カボチャのお煮つけだった。その時ふと久米川の事を思ひ出した。丸田先生がからいからいとおっしゃった顔も目の前に浮かんた。とても甘くておいしかった。午後は療で日記を書いた。リトランプをして遊んだ。午睡をしてゐる人もあった。月曜夜四年生がお掃除をしてゐる間足洗場の所に腰ををろして居た。しばらくすると七時からある映画を矢野さんがたか見にいらっしやうた。私も見たいなあと思

か	で	さ	ン	だ	て	の	の	が	で	て
と	雨	ッ	と	と	い	で	方	ひ	う	は
て	も	た	お	思	い	ぬ	が	ど	れ	た
も	り	す	家	ッ	た	れ	傘	く	し	た
お	が	る	の	た。	い	ず	を	降	ス	い
い	し	め	方	療	て	に	持	ッ	な	た。
し	ッ	を	が	へ	本	歸	ッ	て	ッ	大
か	来	い	お	歸	當	ッ	て	ね	た。	ぶ
ッ	た。	た	い	ッ	に	た。	来	た	療	癒
た。	雨	だ	し	て	育	こ	て	が	人	ッ
口	は	い	ス	か	が	ん	下	前	歸	て
を	い	た。	し	り	た	な	さ	田	る	来
ゆ	や	速	て	乾	い	に	ッ	さ	時	た
す	だ	中	下	パ	事	し	た	ん	雨	の

た。私はこの詩が大好きだ。
地理は、大阪について調べた。ここは、第二
の工業地帯で主として、軽工業だ。先生が
おっしゃった。今度は、軽工業だけが許され、重
工業は少しだとおっしゃった。
算数は、7より小さい数をお習ひした。
とか、0.051 といふのがあった。午後、も学校に居た。
日記を書いてから、ふで箱の中の鉛筆をみん
なけづった。それから地図を書いた。治療もし

い、で、す、ぐ、就、寝、用、意、に、な、つ、た、。

八月三十一日 金 雨

今日で八月も終だ。そ

れに一學期も終だ。

又明日から新しい學

期が始まるのだ。この

一ヶ月はどんなに暑して

来ただらう。この一學期はどんなに暑しかりお勉

強や運動をしただらう。と反省した。



第	二	日	の	授	業	で	圖	書	館	だ	つ	た	。
算	數	の	時	阿	久	沢	先	生	に	英	語	を	教
へ	て	い	た	だ	い	た	私	と	が	僕	と	い	ふ
の	は	ア	イ	と	い	ふ	さ	う	だ	お	習	字	の
時	間	最	初	に	こ	の	前	の	時	間	に	書	い
た	お	清	書	を	返	し	て	い	た	だ	い	た	。
そ	つ	と	隅	に	行	っ	て	見	た	字	く	ば	り
に	注	意	な	さ	い	と	書	い	て	あ	り	優	と
書	い	て	あ	っ	た	う	れ	し	い	今	度	は	字
く	ば	り	に	氣	を	つ	け	て	も	っ	と	上	手
に	書	め	う	。	そ	れ	め	ら	次	の	工	夫	力
作	に	書	め	う	。	そ	れ	め	ら	次	の	工	夫

完成』といふ所をお習ひした。ここもぎやう書

だ、三回位練習するに時間か終つてしまった。

午後は月末寮舎整理をした。自分の

荷物をみんな手前へ出して、きれいにほき、

又きちんと入れた。お部屋もほききれいに

なつてから先生に見ていただいた。本もきちんと

並べた。おやつに、乾パンと、するめをいただ

いた。日記を書いておると出發用意になつた。

夕食後、一番最後のお掃除をした。寮へ歸

つて、で、か、ら、治、れ、う、を、し、て、い、た、だ、い

た。三角定木の入れ物を作りかけ

ると、就寝用意になつた。

九月一日 土 曇

今日から二學期

が始まる。それに

が、始まる。それに

が、始まる。それに

が、始まる。それに

が、始まる。それに

が、始まる。それに

が、始まる。それに

が、始まる。それに

が、始まる。それに



午前十一時五十八分地震が起きて、火災が起った
さうだ。その時齊藤先生頭を丸刈にしていら
っしゃって、もとお若く、井高師の先生におなり
になった。は、かりたじおっしゃった。お話をすん
でから体操をして、いつもめやうに行進をした。
國語の時間は叙のおどげれにはいった。こ
れには初叙の事だけ書いてあると分った。
國史は、聖武天皇の御代の事を主として
調べた。國民がゆたかにくらせらるやうに、國
毎に國分寺を、お建て
分寺を奈良に、お建て
れを東大寺に、お建て
事。高さが、十五丈大佛の高さが、五
丈三尺で、牛のひらで、は、大人が、お
すまふが、出来て、指の高さは、先
よ、り高い。と、おっしゃる。た、の、で、
つ、りした。た、午後、も、寮へ、歸、
校、に、居、た。お、机、を、取、り、に、行、
い、て、お、机、を、取、り、に、行、
だ、が、私、と、平、松、さ、ん、は、茂、木、先、生、と、

卒たてを取りに行つた。井岡寮の前の
道を直すで行つた所だった。二ついたたいて
寮に置いて、すぐ又學校へ行つた。トランプを
してゐるとおり食になった。夕辰後今日か
ら階段のお掃除なので、組分けをして、いたた
いた。日月火が四年生、水木が五年の左の列、金土
が右の列になった。思ったより早くきれいに
出来た。夜寮へ歸つて治療をして、いたたいて
から、乾パンをいただいた。それから、めんなで
ゼニ、まはし、又、電報、で、つ、こ、を、し、
ハ、時、過、ぎ、ま、で、茂、木、先、生、と、み、な、
で、樂、し、く、遊、ん、だ、の、九、月、二、日、晴、
を、ま、る、の、を、待、つ、た。休、操、の、前、に、行、進、
を、し、て、奉、座、殿、の、前、ま、で、行、つ、て、休、



九月三日

朝會の時齊藤先生か
う二つ注意があつた。一
つは廊下や階段にち
りが落ちてゐたらすべ

の	や	一	し	の	子	だ。	っ	民	入	
で	う	年	い	今	に	私	で	學	れ	
日	だ。	も	面	日	な	は	も	族	る	
記	算	た	會	久	ら	そ	え	の	事。	
を	數	っ	日	米	う。	れ	し	先	も	
書	の	た	だ	川	と	を	や	生	う	
い	時	が	っ	に	思	守	く	に	一	
た。	間	と	た。	來	っ	を	お	つ	拾	
	は	思	そ	て	た。	て	す	會	は	っ
	自	ふ	れ	殆	も	も	る	ひ	廿	ス
	習	と	か	め	れ	っ	事	し	學	ち
	だ	ゆ	ら	て	に	と	の	た	校	り
	っ	め	も	の	昨	よ	二	り	や	箱
	た	め	う	樂	年	い	っ	い	國	に



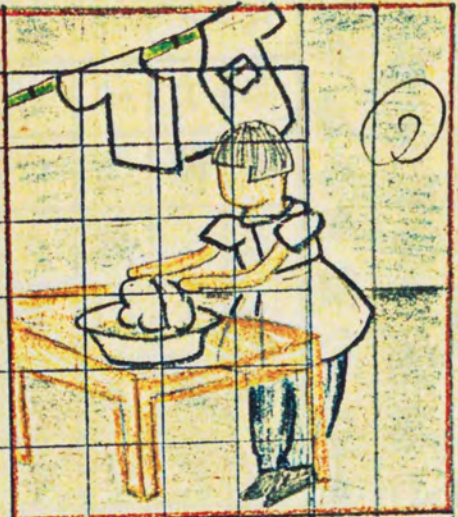
歸る途中西野尻の農業會からお野菜
 をいただいた。おはきうりだった。行きより歸
 リの方が近く思ひた。おやつにするゆゑ、枝
 豆をいただいた。とてもおいしかった。夕食ま
 で學校に居た。高田先生が、黒板に和歌や
 俳句を書いていらつした他の先生のも書い
 てあつた。



九月六日 木 曇晴
 今日久しぶりの休養

あげた。午後、日記を書いた。夕飯を食へて、
 お洗濯をした。ちよびすんだ。こ
 ろお風名になつた。今日、茂木先生は
 うんとあめを出した。茂木先生は
 氣持がわるい。おれは、おれは、
 やる。おれは、おれは、
 た。おれは、おれは、

話をかけたり、永を買つていらつしたり、と
 ても大変だった。早々おなほりになるとよいな
 あと思つた。夜、寮へ歸つて少しすると、茂木先生
 をお見まひに郡先生がいらつした。寝る時
 どうが茂木先生が早くおなほりになりますや
 うにとお祈りした。一時頃、お手洗ひに行くと、
 郡先生がまだ起きていらつした。

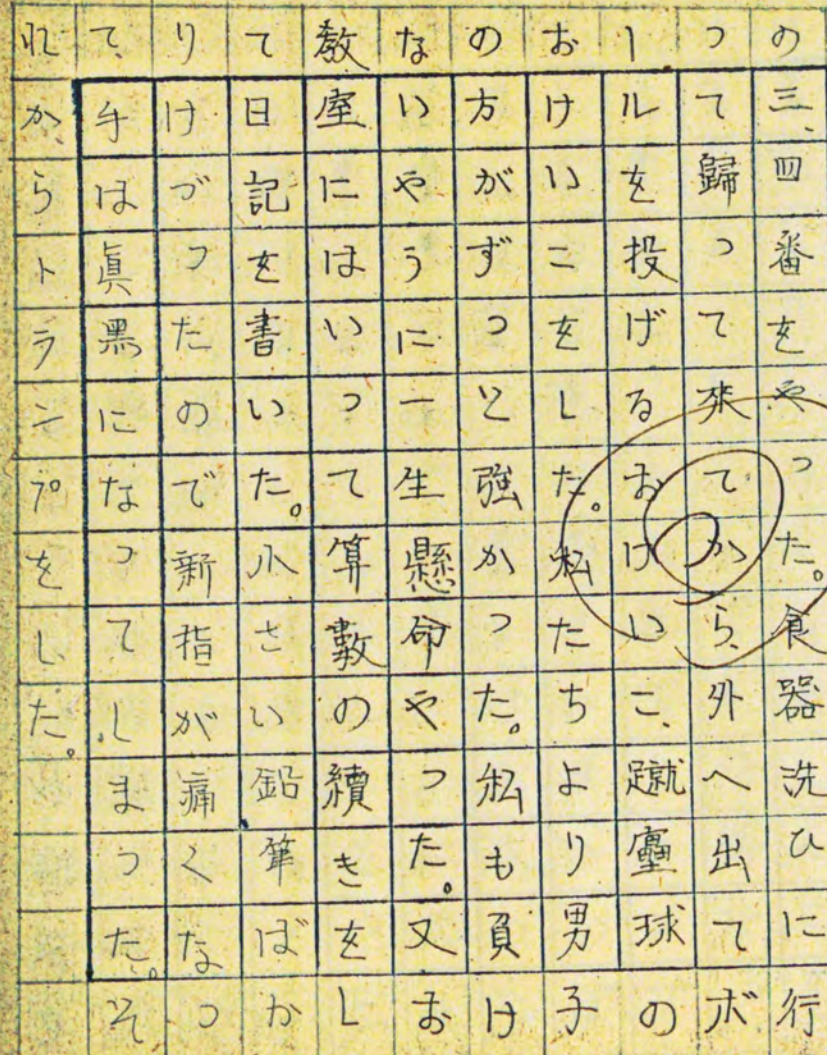


九月七日 金
 今日第一日の授業だ。

た。この前の時間、少くも海岸は、アス
 れを復習した。この海岸は、アス
 式、海岸と、つて、船が着きに、い
 所だ。たつた。一所、九十九里、のや
 うに、なだらかに、な所、が、ある、事、が、
 澤山、あり、それ、は、水、を、流、す、の、に、使
 は、れ、て、お、る、事、熊、の、川、の、所、に、生、え

つ	て	ト	に	の	た	っ	の	り		豆
た	本	ラ	な	お	の	て	で	に	我 ^ワ	を
が	を	ニ	る	部	で	見	と	な	木	い
目	讀	プ	と	屋	と	る	て	っ	先	た
を	ん	を	い	で	て	と	も	た	生	だ
悪	で	し	い	み	も	茂	う	わ	は	い
く	ぬ	て	ゆ	ん	う	木	れ	よ。	ず	た。
す	る	遊	ぬ	な	れ	先	し	と	ぬ	郡
る	人	ん	と	と	し	生	か	あ	ぶ	先
も	も	だ。	い	早	み	の	っ	っ	ん	生
と	三	寝	ひ	く	っ	お	た。	し	よ	が
だ	四	そ	な	お	た。	聲	寮	や	く	
と	人	べ	が		鈴	が	へ	っ	お	
思	あ	っ	ら	り	蘭	し	歸	た	な	

算數の時間は五十頁の九十十一番と五十二頁



いよいよ舩たちと、六年壬子の二組とする
事になった。三部 六年や、三部 五年の人が、應
援してくれるのでとてもうれしかった。元氣
がついて、始めのうちには、勝つてゐたが、一人二
人と外に出て、とうとう居めつしてしまつ
た。ふやしくてふやしくつたまうなかつた。今
度こそうんとがんば張りうと思つた。優勝は、三
部 六年だった。一通りすんでから、体操のあ
とにやったのをみんなの前でやった。平松さん

うなぐてたまらない。朝會まで大部時間があつたので昨日の日記をつけて、カビの日記もつけた。一時間目は「圖画」だったか自習だった。國語の時間は、飛行機の整備のどういふことを勇さんたちは聞いてゐるかといふ所を調べた。喜門先生が答へる時は、まひまではつきり言はないとアメリカ兵につれて行かれてしまふといふとあつたため、こはなくなった。理科の時間は、カビを又お習ひした。カビに

に	は	生	き	て	ぬ	る	う	ち	に	し	ほ	水	に
さ	ら	な	い	な	い	や	う	に	取	つ	て	あ	く
お	し	ほ	か	は	い	つ	て	ぬ	る	か	ら	く	
さ	ら	な	い	な	い	か	と	い	ふ	と	お	砂	
い	ふ	事	そ	れ	か	う	び	ん	づ	め	は	な	
の	に	あ	る	が	ま	と	め	て	カ	ウ	デ	カ	
カ	ビ	は	お	味	増	や	お	洒	や	い	ろ	ろ	
な	い	カ	ビ	が	あ	る	の	だ	た	め	に	な	
る	カ	ビ	と	そ	の	反	對	に	た	め	に	な	
も	二	通	り	あ	つ	て	人	間	に	た	め	に	

入れ、これは水をうんとおませる。とあつた。エジプトには、人間をひばしにしたのが博物館にあるさうだ。ぬがそんなのを見たらいふたなあと思つた。お晝食がすんでから、葉書をいたいた。一ヶ月ぶりだったのでとてもうれしかった。それに、矢野さんからのと、うちからのと、二通だった。加藤先生の理科は、一から八までで、一から十までの数を出す方法を考へた。少し頭をひねる。

な	し	て	先	も	プ	マ	で	そ	と	と
た	す	遊	生	作	を	フ	き	れ	で	出
た	む	ん	と	つ	し	た	た	は	は	末
	と	だ	十	た	た	か	ら	時	全	た
	ち	ぬ	三	夜	リ	ら	み	間	部	先
	よ	き	四	寮	日	だ	な	の	や	生
	う	ば	人	へ	記	そ	や	め	と	の
	ど	ば	で	歸	を	れ	め	に	お	所
	就	七	ト	つ	け	ら	る	だ	っ	へ
	寢	並	ラ	て	た	は	と	れ	し	持
	用	な	プ	か	マ	ス	お	か	や	つ
	意	ど	を	茂	ス	ラ	っ	一	っ	ぬ
	に	を	し	木	ク	ン	し	人	た	く



九月十二日

今日は第五日の授業だ。だが三部六年が波多整作所にたなや下駄箱を取りに行って先生方も少くたいていは自習の組ばかりだった。母学校の授業開始のベルがなるまで、

りだった。母学校の授業開始のベルがなるまで、日なたぼっこをした。音楽の時間が母んで少ししてから、各学年毎に廊下へ並んで國民學校

の	の	ひ	船	先	お	珠	そ	つ	に	一
お	裁	頃	出	生	話	開	れ	て	一	月
縫	食	した。	前	が	が	は	か	冬	本	め
室	事	二	う	う	始	け	う	の	づ	う
に	を	年	三	っ	ま	る	次	食	つ	来
行	いた	生	番	し	っ	と	へ	物	い	年
っ	た	か	目	や	た	お	次	の	た	の
た	だ	う	に	っ	づ	っ	へ	事	だ	四
来	い	順	な	っ	一	し	お	な	と	月
た	た	に	っ	い	番	や	話	っ	し	ま
ば	事	並	た	よ	に	っ	は	た	も	で
か	を	ん	主	い	集	た	変	一	も	は
り	思	で	事	よ	團			日	十	百

本それが百四十人で二百八千本一けんのおおしやうさんに千本お頼みしても二十八けんを運んで来るのが大変運んで来ても置場所がない。といふ事になった。それからうそれへといろいろなお話があつて一番最後に主事先生がこちらへいらっしゃる時のお話で終になつて、すぐお食事になった。お食事の後で、お豆のあんのはいってゐるふかしぱをいただいた。とてもおいしかった。午後は寮へ歸つてお風呂へはいった。りかみ洗ひをした。り荷物の整理をした。出発用意になつて並ばうとす。る。高田先生がいう。し。や。つ。て。こ。れ。だ。れ。か。持。つ。ち。う。さ。だ。い。と。お。っ。し。や。っ。て。荷。物。を。お。さ。し。出。し。に。な。っ。た。の。で。お。持。ち。し。た。重。く。て。二。人。で。は。な。い。と。持。て。な。い。位。の。を。兩。手。に。持。て。い。ら。し。や。っ。た。の。で。も。大。変。だ。っ。た。そ。れ。に。電。車。の。中。で。お。腹。が。痛。く。な。つ。て。大。変。だ。つ。た。さ。う。だ。

夜寮へ歸つてから、前かけのポケットの布
おきししゅうをした。櫻ぼにした。



九月十三日木
今日は第六日目の授
業だ。算数の時間は
整数を学習ひし、10
から100までの中の数
を2から9までの数で

割れる数に丸をつけて割れない数を出した。

行	四	服	つ	お	す	で	ふ	前	け	國
つ	年	を	て	晝	み	書	字	を	を	語
た。	生	着	手	食	で	いた	が	練	し	の時
始	ど	て	拭	が	真	た	う	習	ら	間
め	五	學	と	す	黒	の	ま	し	べ	は
平	年	校	石	ん	に	で	く	た。	た。	飛
松	生	へ	け	で	な	親	い	ど	お	行
さ	に	行	ん	か	っ	指	か	う	習	機
ん	別	つ	と	り	て	と	な	も	字	の
の	れ	た。	櫛	す	し	人	め	野	の	整
列	て	それ	を	ぐ	ま	ま	っ	と	時	備
が	床	れ	持	寮	っ	し	た。	徳	間	の
行	屋	か	ち	制	た。	指	大	と	は	わ
つ	へ	ら	制	歸		が	筆	い	名	

て私達は外で遊んだ。しばらくすると雨が
降って来た。音楽室にはいった。木村先生がお
さじをけづっていらっしゃった。そのうちに、成があ
いてしまった。少しすると、平松さんと山崎さん
と高島さんが歸っていらっしゃったので入れ代
ってすぐ床屋へ行った。はん鐘の所を右に曲
たお寺の前だった。英霊迎へたが行けない
と思ふと申しわけないやうな氣がした。みん
なすんで外へ出る。とちよう度みんなが歸つ

て	来	る	所	だ	っ	た	の	で	す	ぐ	刑	へ	は
い	っ	た	夜	寮	へ	歸	っ	て	か	ら	お	う	ち
の	方	の	お	心	づ	ス	し	の	こ	も	っ	た	甘
い	甘	い	か	ぼ	ち	や	を	い	た	だ	い	た	こ
ん	な	に	し	て	いた	た	だ	い	て	は	も	っ	た
い	な	い	や	う	な	氣							
が	し	た	い	た	だ	い							
て	か	ら	お	皿	を	洗							
ひ	う	が	ひ	を	す	る							
と	ち	よ	う	度	就	床							
用	意	に	な	っ	た								



九月十四日 金 曇 小雨

今日は五・三・四年は桑山の辺五・六年は砂子谷
國民學校へおぼちやをいただきに行くのだ。
朝會をすませて、高學年からすげがさをか
ぶり雨具を持って出發した。桑山の横をど
こまでもどこまでも行った。切り立った山が右
手に、金の波をうつ早船を左手にだいが歩
いてしばらくすると、ひや自動車の通るト・ネ
ルに來た。中にはいると急に涼しくなつて、ドラム
ス・カ・ン・が・ず・り・と・並・ん・で・石・油・く
そ・か・つ・た・そ・こ・を・出・て・少・し・し・て・か
ら・休・け・い・に・な・つ・た・ま・た・出・發・し・た・た。
ど・こ・ま・で・行・つ・て・も・は・し・も・な・い
山・だ・い・ぶ・行・く・と・家・が・ほ・つ・ん・ど
建・つ・て・お・も・う・部・ら・く・へ・は・い・つ
た・の・だ・う・と・思・つ・て・お・ね・る・と・役・場
ら・し・い・も・の・が・あ・つ・た・そ・こ・を・少・し
行・く・と・學・校・り・し・い・物・が・見・え・た・と
す・る・と・急・に・元・氣・づ・い・て・さ・つ・と
歩・い・た・ま・る・で・別・入・の・や・う・だ・と

やがて學校へ着いた。先生が出ていらつしゃつ
て、おたちを体練教室に案内して下さった。二
列に並びルックサツクをおろして、もんぺもぬい
だ。少し休んでゐると、又先生方がいらつしゃつて、ご
ざの所に机を出して下さった。一つの机に入
づつすわった。上が少しうるさくなると、階段から
机を持って降りていらつしゃつた。一羽にずうりと
並べられると、片度ほたくさんのおぼちやが運
ばれた。それから、そのおぼちやを間にはさん
で、お・式・を・し・た・三・年・以・上・の・方・が
一・生・懸・命・に・な・つ・て・作・つ・て・下・さ・つ
た・の・だ・と・思・ふ・と・も・つ・た・い・な・い・や
う・だ・や・が・て・あ・式・が・終・つ・た・そ・れ・か
ら・す・ぐ・お・食・事・に・な・つ・た・あ・た・た・か
い・お・味・増・汁・も・出・し・て・下・さ・つ・た・感
謝・を・し・て・お・食・事・を・す・ま・せ・た・又・少
し・休・け・い・し・て・お・ね・る・と・阿・部・先・生・や
そ・の・他・の・先・生・方・が・い・ら・つ・し・や
た・さ・う・し・て・六・年・生・が・二・回・五・年・生
が・一・個・づ・つ・か・ほ・ち・や・を・持・つ・た・



るだらうと思った。學校へ行くともう南瓜や
とけふゆんや、きうりや、なしがついてあとお赤飯
だけだった。全部ごち走を並べるに机が一はい
になりさうだった。よくかんでいたいてぬると
とてもおらんくなって、だんだん暗くなって来た。
全部すんだ頃は、だれがだれか、わかんない
くらいだった。急いで食器を洗ひお米運び
に行った。寮へ歸つて日記を書いた。



お 寮 平 般 寮
か り し て ぬ た お 教 座 を 又 井 學
の 方 に お 返 し す る か ら だ ぬ 船 は
松 さ ん や 山 崎 さ ん と 彈 ぱ ん 係
な っ て 水 刀 や か ば ち や 本 田
に 運 ば っ た 他 の 人 は お 牛 洗 ひ
お 掃 除 だ っ た

九月十六日 日 曇

それがすんでから、食器をお裁縫座にうつし
て、校庭に居た。集合になったが、まだ早すぎ
たので、又は分れて、今度は前田寮全部でハ
ンケチ落しをした。おまぬけさんをどんどん
ためて、十二人目に、私がおまぬけになってしま
った。それをやめて、通りゃんせをしようとする
と、又集合になった。福光公園に行つて、招魂
祭に参列した。神主さんの衣が、とても美しく
見えた。昨日のやうに、だんだんつかれて来た。

玉 次 色 す っ す 子
ざ し 々 む た さん
を あ の 頃 お 四
あげ 物 は 又 食 年
て だ 足 又 器 生
い だ 供 が 足 食 だ
ろ け へ か 足 食 だ
ろ け へ か 足 食 だ
な け へ か 足 食 だ
祭 だ へ か 足 食 だ
た だ へ か 足 食 だ
ん だ へ か 足 食 だ
が だ へ か 足 食 だ

葉でとてもしきれなかつた



九月十七日 月曇雨
今日は休養日だ。朝食
がすんで食器を洗ふ前
に朝禮をした。食器を
洗つてめうすぐ寮へ歸
った。すぐ日記を書いて

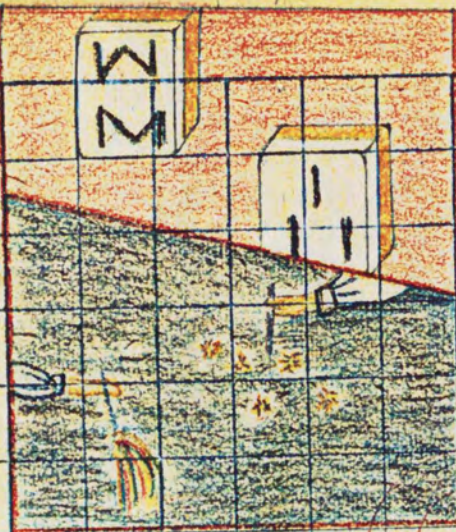
荷物の整理整頓をした。少し荷物が少くなつたやうに思はれた。それから、鈴蘭のお部屋で

取	有	索	め	ん	振	ス	お	で	ポ	前
リ	賀	へ	ら	で	し	ま	っ	ぬ	を	野
に	先	歸	歸	ぬ	や	こ	し	る	し	さ
い	生	マ	っ	る	う	ど	や	入	た	ん
ら	は	て	て	と	ぎ	ち	っ	は	す	や
っ	城	め	束	み	を	や	た	下	る	中
し	端	う	た	の	し	ん	の	に	と	根
や	に	ト	お	る	た	と	で	い	有	さ
っ	こ	ラ	晝	ち	出	五	降	ら	賀	ん
た	ん	ン	食	や	發	六	リ	っ	先	達
	に	ポ	が	ん	用	人	た	し	生	と
	や	を	す	が	意	の	さ	や	が	ト
	ス	し	ん	學	で	入	う	い	遊	ラ
	を	た	で	校	並	で	し	と	ん	ン

夜案に歸つてランプをしようと思つてぬる

と、花火を見た人はずへいううしといと有賀先生がおっしゃったので行った。二三本したがしめつて、うまん出ないので、火ではかして又やった今度はとてもきれいに出た。何と言つても電氣花火はきれいだつた。それからをち藤とゆり子さんと岩田さんと船とで、モーゼンをした。うちでお正月にやった事を思ひ出した。東の場をやって南の場を少しやるに八時半頃になつたのでや

用	リ	め
意	子	た。
に	さ	ぬ
な	ん	は
っ	が	二
た。	一	回
	番	あ
	だ	が
	っ	っ
	た。	た。
	す	点
	ぐ	敷
	就	は
	床	り



や	時						九月十八日火
う	間						
に	が						
朝	あ						
食	く						
後	れ	あ	い	す	ま	夜	か ら の 風 が
行	た	の	い	ご	だ	中	
は	で	南	て	い	や	か	
れ	昨	風	お	勢	ま	う	
た。	日	だ。	る。	ひ	ず	の	
	と	朝	な	で	も	風	
	同	會	ま	吹	の	が	
	じ	は	暖				

六年は二階で五年は一階で圖書館で
お勉強をした。一時間目は、神戶から門司
までと四國を書いた。川も入れた。圖工も
算數も自習だった。それで日記を書いた。
お昼食がすんでから寮へ歸った。又何もする
事がないので、トランプをしてゐると先生が
呼びになった。はがきかなと思つて行くと思
もよりぬ小包だった。むねがわるゐるしてど
から先に取してよいかわからなくなつてしまつた。
毛糸や桑山でなぐししまつた
お箸箱や防空服製の布など色々
出て来た。先生に見つてた
から荷物場所に行つて
やいらない物に分けて
うれしくつれしめてた
か。つた。何かつまらな
た。それから寺尾さん
ん。の所へ来た。お手紙
ただいた。とてもしきれ
な序なの

約數と最小公約數を
午後には寮へ歸つて
を始めた。熱いので
う。始めは段ふり少
あ。と。と。お。持。た。な
た。と。と。お。持。た。な
て。か。り。荷。物。の。整。理。を
夕。食。か。ら。歸。つ。て。か。ら。少。さ。の。友。を



です。つかり感心してしました。又トランプを
始める。菅村さんが私を呼んだので行
て見たすると、マジヤンだった。出で腹用意
まで楽しく遊ばせていた。寮へ歸つ
てからトランプをして遊んだ。今度お手紙を
書に時はきつとこれを書かふと思つた。
九月十九日
一時間目は昨日のお
約束通り國語の考査
が。あ。た。かな。付
け。も。あ。た。算。數
の。時。間。は。最。大。公
約。數。を。お。習。ひ。し。た。
て。入。浴。か。み。洗。ひ。
ど。ん。ど。ん。う。め。た
な。か。つ。た。の。が
と。と。と。あ。が。つ

			六	五	四	三	二	一	
			算	音	圖	國	國	地	7
			國	國	國	史	史	圖	2
			習	算	理	地	算	算	3
			圖	理	理	裁	俗	理	4
				裁					5
					思	う	日記	と	乃
					ふ	ふ	面	白	ニ
					か	け	い	い	六
					ろ	な	た	い	検
					い	い	い	い	



讀んだ。昔の本なので、いちごのざりまの
作り方が、よだれの出るやうなのは、かり書い
てあった。

[illegible]

